

小学校第2学年 音楽科学習指導案

指導者 篠原 奈都子

1 題材名 おはやしのリズムをつくろう

2 題材の目標 おはやしの音楽の問い合わせと答えを生かし、イメージを広げ、思いをもっておはやしのリズムをつくる。

3 主な〔共通事項〕 ア (ア) リズム、音色(奏法)、強弱、速度
(イ) 問いと答え



4 題材設定の意図

(1) 題材観

本題材では、おはやしについて自分なりのイメージを広げて、思いをもってリズムづくりをし、音を音楽にしていくことを楽しむことをねらいとしている。

イメージとは、場面や様子、情景などを思い描くことに加え、全体的な見通しをもつこととらえる。そこで、おはやしのリズムをつくるときには日本各地のお祭りや、地域に伝わる「綱火」で使われているおはやしを知ることで、自分なりのイメージをもたせていくたい。また、「問い合わせと答え」という音楽の仕組みを生かし、おはやしの音楽にふさわしいリズムをつくることができるようになしたい。さらに、つくったリズムを音楽や言葉で伝え合うときには、和太鼓を用いることで、日本や地域の伝統音楽のよさに気付かせるとともに、和楽器の演奏にも興味をもって取り組めるようにしたい。

(2) 児童の実態 (男子13名 女子10名 計23名)

1 おはやしを聴いたことがありますか。

- ・ある 16名
- ・ない 7名

ある人はどこで聴きましたか。(覚えている人のみ)

- ・地区のお祭 1名
- ・隣の市のお祭り 5名
- ・スーパーのお祭 5名

2 リズム打ちのどんなことがすきですか。(複数回答)

- ・みんなと合わせること 13名
- ・曲にあわせること 18名
- ・くりかえしてうつこと 5名
- ・おもしろいリズムを打つこと 10名
- ・先生や友だちのリズムをまねするところ 5名

3 音楽をつくることはすきですか。

- ・すき 10名
- ・きらい 2名
- ・わからない 11名

4 リズムづくりをしてみたいですか。

- ・やってみたい 18名
- ・やってみたくない 2名
- ・わからない 3名

調査時に、「おはやし」については「お祭りのときに聴こえてくる太鼓や笛の音楽」として児童に説明した。聴いたことがある児童は半数以上いたが、聴いたことがないと答えた児童もいた。

またリズム打ちに関しては、1学期から繰り返し授業に取り入れてきたためか、ほとんどの児童が興味をもって取り組み、みんなと合わせたり、曲に合わせたりすることを楽しんでいる。一方、音楽づくりに関してはあまり経験がないためか、好きと答えた児童は10名しかいなかった。しかし、リズムづくりに対する関心は高く、約8割の児童がやってみたいと答えている。

(3) 指導観

本題材で、イメージをもっておはやしのリズムをつくることで、思いをもって音楽づくりをする児童を育成したいと考える。しかし、実際のお祭りの中で使われていたおはやしを聴いたことのある児童は少ないため、日本各地のお祭りのおはやしや、地域に伝わる綱火のビデオを視聴したり、お祭りの思い出を話し合ったりすることで、児童それぞれがイメージをもっておはやしづくりができるようにしたい。

リズムを考える際には六つのリズムカードを組み合わせることとし、どの児童も無理なく取り組めるよう配慮したい。

その際、「みこしだ わっしょい わっしょい しょい」のリズムパターンを「問い合わせ」とし、「問

い」から感じ取ったイメージに合う、「答え」のリズムをつくることとする。さらに児童の実態を踏まえながら、つくったリズムを「音色」、「強弱」、「速度」を「音を試す活動」を通して工夫させることで、自分なりのイメージに近付くように、思いをもって音楽をつくる力を育てたい。

また、リズムづくりをしたいという児童の気持ちを大切にしながら、学習指導要領に示されている〔共通事項〕のイの音符や休符（四分音符、休符及び八分音符、休符）を無理なく身に付けさせていきたい。さらに和楽器を取り扱うことで地域や日本の伝統音楽に目を向け、興味、関心を高めていくきっかけにしたいと考える。

5 教材について

「リズムあそび」

カードを使ったリズム創作の活動をゲーム感覚で楽しめる教材である。二拍に限定されたいろいろなリズムがそれぞれのカードに示されており、カードの組み合わせを考えることによって自分のリズムフレーズを簡単に創作できるようになっている。

6 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能
歌唱			
器楽			
創作	○	○	○
鑑賞			
評価材規準	おはやしのリズムに関心を持ち、リズム遊びを楽しんでいる。	おはやしの音楽の特徴を感じ取り、そのイメージを音楽づくりに生かしている。	イメージに合ったおはやしのリズムを思いをもってつくっている。
具体的評価規準における	① リズム表現の面白さに気付き、聴くことに意欲的である。 ② リズム遊びや簡単なリズムづくりを楽しんでいる。	① 「問い合わせ」に対する「答え」であるリズムや音そのもののおもしろさを感じ取り、イメージに合った音色(奏法)、強弱を工夫している。	① 「問い合わせ」に対して組み合わせた「答え」のリズムを、音色(奏法)、強弱、速度を工夫しながら、イメージを広げ、思いをもっておはやしのリズムをつくっている。

7 学習と評価の計画（4時間扱い）

次	ねらい	主な学習活動	具体的評価規準
第1次	○自分なりのおはやしのイメージをもつ。	○ お祭りのビデオを視聴し、おはやしについての自分なりのイメージをもつ。	ア-①
第2次	○六つのリズムパターンに慣れる。	○ 六つのリズムパターンのリズム譜を見て、手拍子やリズム唱などをする。リズム遊びをする。	ア-②
第3次 (2) 本時は 第2時	○「問い合わせ」に対して組み合わせた「答え」のリズムを、音色(奏法)、強弱、速度を工夫しながら、イメージを広げて思いをもっておはやしのリズムをつくる。	○ 六つのリズムパターンを組み合わせて四小節のリズムをグループでつくる。「問い合わせ」に対する「答え」であるリズムのイメージに合った音色(奏法)または強弱を試す。 ○ 六つのリズムパターンを使って自分のおはやしをつくる。「問い合わせ」に対する「答え」であるリズムのイメージに合った音色(奏法)、強弱、速度を工夫して表現する。	イ-① ウ-①

8 本時の学習

(1) 目標

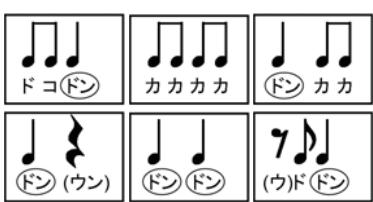
「問い合わせ」に対して組み合わせた「答え」のリズムを、音色(奏法)、強弱、速度を工夫しながら、イメージを広げ、思いをもっておはやしのリズムをつくる。

(2) 準備 資料

教師：リズムカード（提示用と配布用）、締太鼓、うちわ、クラベス、ワークシート

児童：うちわ、はちまき

(3) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点（○）・評価（評）			
3	<p>1 本時の学習課題を知る。</p> <p>答えのリズムをイメージに合うようにくふうしておはやしのリズムをつくりましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ お祭やおはやしのイメージを思い出してリズムづくりをすることを知らせる。 ○ 前時では、グループでおはやしをつくっているので、本時で自分のおはやしをつくってみよう、ということを伝えることで、児童の気分を盛り上げたい。 			
15	<p>2 リズムづくりをし、実際にたたいてリズムを確認する。</p> <p>(1) つくり方の確認をする。</p> <p>① 六つのリズムの中から選んで組み合わせる。</p>  <p>② 「みこしだ わっしょい わっしょい しょい」に答えるようする。</p> <p>(2) 「答え」のリズムを音色(奏法)、強弱、速度を工夫しながら、おはやしのリズムをつくる。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">音色（奏法）→締太鼓でどのようにたたくか。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">強弱 →音の強さはどれくらいか。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">速度 →どんな速さで答えるか。</td> </tr> </table>	音色（奏法）→締太鼓でどのようにたたくか。	強弱 →音の強さはどれくらいか。	速度 →どんな速さで答えるか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 六つのリズムパターンを使って、四小節のリズムをつくることを知らせる。 ○ リズムカードそれぞれについて、全体でリズムを確認する。 ○ リズムカードを配付し、つくったリズムをワークシートにはるようにする。 ○ 掛け声のリズムパターン「みこしだ わっしょい わっしょい しょい」を「問い合わせ」として、それを受けた流れの中で、「答え」となるリズムを考えるようにする。 ○ 音色（太鼓のどの部分をたたくか）や、たたく強さや速度などのうち、どれか一つは工夫するよう伝える。 ○ 音色や強弱を工夫する際には、ドンやカカなどの言葉の持つ響きから想像するよう助言する。 ○ 速度を工夫する際には、「問い合わせ」に対する「答え」となることを意識させ、その中で面白さを見つけさせたい。 ○ 「答え」のリズムを工夫する際には、実際に締太鼓をたたいて試してみるようにする。また、工夫した訳をそれぞれ考えるようにする。
音色（奏法）→締太鼓でどのようにたたくか。					
強弱 →音の強さはどれくらいか。					
速度 →どんな速さで答えるか。					
10	<p>3 つくったリズムをグループで試す。</p> <p>(1) 締太鼓を実際にたたく。</p> <p>(2) 感想を言い合う。</p> <p>(3) たたく順番を決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ リズムをグループ内で聴き合い、感想を言い合って、良かった点や工夫できそうな点などを伝え合うよう助言する。 ○ 全体発表ではグループごとのリズムリレーになるので、順番を決めるよう伝える。 			

15	<p>4 つくったリズムを全体で演奏し、聴き合う。</p> <p>(1) 発表の仕方を確認する。</p> <p>(2) グループごとに発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表するグループは締太鼓を順番にたたく。 ・聴く児童はうちわを持って、「問い合わせ」のリズムをたたく。 <p>2 5 本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「問い合わせ」のリズムパターン「みこしだ わっしょい わっしょい ショイ」と間に入れてそれぞれの児童が締太鼓をたくなるようにする。 ○ 聽く側が「問い合わせ」のリズムパターンに加わることで、誰もが常に演奏に関われるようになる。 ○ 教師は「問い合わせ」のリズムパターンと一緒にクラベスでリズムをとり、児童が2拍子を感じて演奏できるよう支援する。 ○ これまでの学習を振りかえり、児童ひとりひとりが思いを大切にしてリズムづくりに取り組めたことを認めたい。 <p>② (評) ウー①「問い合わせ」に対して組み合わせた「答え」のリズムを、音色(奏法)、強弱、速度のうちいづれかを工夫しながら、イメージを広げ、思いをもっておはやしのリズムをつくっている。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;">十分満足 (A)</td></tr> <tr> <td style="padding: 5px;">イメージを大切にしたおはやしのリズムづくりをし、音色、強弱、速度のいづれかを思いを明確にして工夫している。</td></tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;">努力を要する児童への配慮 (C)</td></tr> <tr> <td style="padding: 5px;">おはやしのイメージを確認し、使うリズムや音の出し方と一緒に考える。</td></tr> </table>	十分満足 (A)	イメージを大切にしたおはやしのリズムづくりをし、音色、強弱、速度のいづれかを思いを明確にして工夫している。	努力を要する児童への配慮 (C)	おはやしのイメージを確認し、使うリズムや音の出し方と一緒に考える。
十分満足 (A)						
イメージを大切にしたおはやしのリズムづくりをし、音色、強弱、速度のいづれかを思いを明確にして工夫している。						
努力を要する児童への配慮 (C)						
おはやしのイメージを確認し、使うリズムや音の出し方と一緒に考える。						

(1) 板書計画

12/5 答えのリズムをイメージに合うようにくふうしておはやしのリズムをつくりましょう。

つくり方

① カードを四つえらんで組み合わせる。

② 「みこしだ わっしょい わっしょい ショイ」につづけてたたく。

			
---	---	---	---

くふうしてみましょう

ねいろ 音色 ⇒ しめだいこのどこを たたこうかな
きょうじやく 強弱 ⇒ 音の強さはどのくらいに しようかな
はやさ ⇒ どのくらいのはやさで たたこうかな